

## 令和元年度～令和5年度 森林環境譲与税に関する状況

区分	令和元年度～令和4年度	令和5年度	計	令和5年度末時点 活用率	未執行額の活用方針
活用額（円）	520,459,765	134,037,413	654,497,178	98%	【市町村への支援】 高精度な森林資源データを森林クラウドシステムへ搭載し、市町村における森林経営管理制度の業務効率化を図る。
譲与額（円）	528,182,000	142,997,000	671,179,000		

## 令和5年度 森林環境譲与税に関する状況

事業名	事業内容・実績など	事業費 （円）
Ⅰ・林業担い手の確保・人材育成	<b>「わかやまの森」次世代人材確保支援事業</b> 【都市部での情報発信と林業就業へのトータルサポート】 都市部への林業就業PRとセミナーおよび就業相談会の開催 ・セミナー：9回 ・就業相談会：2回 ・県林業PRのためのSNSによる情報発信、動画サイトによるPV配信 【林業無料職業紹介事業運営】 わかやま林業労働力確保支援センターで林業に特化した職業紹介機能および、Webサイト「わかやま森の職業紹介ナビ」を運営 ・求人登録者：25事業者 ・求職登録者数：43名（令和元年度～令和5年度延べ人数） 【わかやま林業就業サポート講習】 林業への就業に関心のある者を対象とした1日または6日間の林業体験講習 ・実施回数：6回 ・受講者数：延べ32名 【新規就業希望者への就業支援】 農林大学校林業研修部林業経営コースにおける研修期間中に使用する安全保護具の購入支援及び林業新規就業者に対する安全保護具の購入支援 ・支援対象者：11名 【緑の青年就業準備給付金の対象年齢の拡大による研修生の支援】 農林大学校林業研修部林業経営コースを修了して林業へ就業する時の年齢が45歳以上55歳未満の研修生に対し、一定の要件を満たす場合に給付し、研修受講を支援	47,459,389
	<b>農林大学校林業研修部事業</b> 【最先端林業を学べる環境整備】 農林大学校林業研修部において、最先端の林業研修を行うための機材等を整備（フォワーダ・ミニバックホー） 【林業経営コースの研修内容拡充】 木材流通における最下流からの視点を養う木造建築研修、森林3次元計測システムを活用したレーザ計測研修等を令和元年度から実施	35,675,412
	<b>森林・林業雇用総合対策事業</b> 【伐倒技術向上研修】 林業現場において、伐倒作業に従事する技能者の労働安全意識と伐倒技術の正確性向上のための実習主体の研修を実施 ・研修受講者：6名 【林業経営人材の育成研修】 林業事業者の事業管理者や実務者を対象に、林業経営にかかるコスト管理や事業決算書作成等の演習を実施 ・研修受講者：8名	9,661,300
	<b>森の守り人支援事業</b> 【意欲と能力のある林業経営者向け研修】 林業経営者向け研修の実施 ・研修：2回（184名） 【伐木技術競技会】 安全で正確なチェーンソー技術の研鑽と啓発のための競技会を開催 ・競技会：1回（参加者10名）	3,066,760
	<b>森の守り人支援事業</b> 【市町村職員等研修・巡回支援】 森林経営管理制度の円滑な実施を行うため、市町村職員等を対象とした研修の実施と定期的な巡回支援を委託により実施 ・研修：12回（31名・延べ109名） ・巡回支援：3巡（30市町村） 【森林資源情報整備】 森林クラウドシステムの保守管理 既存の航空レーザ測量成果等を活用し森林資源情報（地位・地利情報）の整備を行い、市町村へ提供することで森林経営管理制度への取組を支援 【公共施設木造化相談窓口】 市町村の公共建築物の木造化・木質化の促進に向けた技術的支援を実施 【実績】相談件数：14件	33,926,200
Ⅱ・市町村への支援	<b>森の守り人支援事業</b> 【紀伊半島3県共同研究】 紀伊半島3県の共通課題に対し実行委員会による共同研究を以下のテーマで実施 ・簡易で安価な林内通信機器の研究・開発（研究期間：R4～R5） ・ICTを活用した森林整備促進ソフトウェア開発（研究期間：R4～R5） ・チェーンソー保護機能と可動性を備えた地下足袋の研究・開発（研究期間：R5～R6） 【制度の普及啓発等】 森林経営管理制度の普及啓発活動を実施 ・研修会：1回（42名）	4,248,352
Ⅲ・その他の取組		
<b>合 計</b>		<b>134,037,413</b>

## 森林環境譲与税活用の効果

- ・県内30市町村のうち20市町村において森林経営管理意向調査が実施されるとともに、13市町村において森林経営管理権集積計画が作成された。
- ・また、市町村森林経営管理事業が13市町村で実施され、補助事業も含め20市町村において森林整備が進められた。
- ・和歌山県林業のPRに努めた結果、令和5年度は54名の新規就業者を確保することができた。また、令和5年度の農林大学校林業研修部への受講者数は10名であった。